

11月1日(月)

決してあなたを裏切らない

聖書朗読 マルコ 14:32~42

ですから、立っていると思う者は、倒れないように気を付けなさい。

Iコリント 10:12

弟子たちにとってあの一週間はどれほど衝撃的だったことでしょうか。主とともに過ぎ越しの食事をしにオリーブ山へ出かけて行ったとき、イエス様はこれから起こることを予言されてこう言われました。「あなたがたはみな、今夜、わたしのゆえにつまづきます。」

すると弟子のペテロは憤慨して「たとい全部の者がつまずいても、私はつまずきません。」と言います。これに対しイエス様は、疲れ切ったご様子でしたが、愛の眼差しをもってこう言われます。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

その後彼らは重い足取りでゲツセマネへ行き、そこでイエス様は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネに、ご自身が祈っている間「目を覚まして祈っているよう」求められます。けれども、イエス様が彼らの元へ戻られた3度とも、「ご一緒に死ななければならないとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」と豪語したペテロも含め誰も、目を覚ましていることが出来ませんでした。

私たちは自分がいかに献身的であるかという思いに浸っているとき、自己満足に陥り、うぬぼれ、その末にいとまやすく破滅に向かってしまうものです。ペテロは後に神様のみちからによって驚くべき働きをし、そして主の為に死ぬこととなります。けれどもこの晩は、ペテロの「岩」は砕け、目を覚ましていることができず、主を否定してしまったのです。このようなことがペテロにすら起こったのですから、彼が自分は揺るがないと信じていたように、私たち自身も同じ自己満足に陥りやすいものです。目を覚ましていきましょう。

讃美歌 274

祈り 親愛なる神様。私たちと共にあるあなたの御子の御力に目を注がせてください。順風満帆なときあなたにご栄光がありますように。すべての良いものはあなたから与えられるものです。挫けたときには、どうかあなたの恵みによって希望と力をお与えください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

クルティス・K・シェルブルン
テキサス州 マルシュー

今日のカ

2021年11月1日~11月7日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

11月2日(火)

あなたの敵を愛せよ

聖書朗読 ルカ 6：27～36

自分を愛する者を愛したからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。罪人たちでさえ、自分を愛する者を愛しています。

ルカ 6：32

あなたの敵を愛せよという主の戒めほど、よく語られる戒めは他にはないのではないのでしょうか。私たちにとって「難題」というのはまさにこのことです。敵を愛するという、それは私たち自身では到底不可能です。

ギリシャ語に愛を表わす「アガペー」ということばがありますが、これは「他者に積極的な善意の姿勢を表わす」という意味です。敵と思う相手が自分に何をしようと、私たちに許されるのはその相手に対し善を望むことのみであり、意識的に彼らに善を施し親切に接するということです。また、侮辱されあるいは傷つけられたりしても、そうした相手に対し、彼らの最善しか求めてはならないのです。これはただ相手を傷つけないということではなく、積極的にあらゆる人に対し善をなし、愛するという能動的な姿勢です。

このような愛は、私たち自身から溢れてくるものではなく、神様の御愛によるものです。神様はご自身と同じように、私たちが他者を愛することを望んでおられます。そしてこのことは、私たちに注がれるその御愛と恵みによって可能となるのです。

讃美歌 389

祈り 親愛なる主よ。敵を愛することが出来るよう祈ります。どうか愛を示すとき、ご聖霊を与え愛することが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

エディ・ルイス

ミシシッピ州 オリーブブランチ

11月3日(水)

主にあって強く

聖書朗読 ルカ 8：4～15

主に信頼し、主を頼みとする者に祝福があるように。その人は、水のほとりに植わった木のように、流れのほとりに根を伸ばし…。

エレミヤ 17：7～8

今日の聖書朗読の箇所では、種まきの例えが記されています。道ばたに落ちた種は踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。別の種は岩の上に落ち、水分がなく枯れてしまった。また別の種はいばらの真ん中に落ち、いばらもそこで成長し、その種をふさいでしまった。別の種は耕された土地に落ち、芽が出て百倍の実を結んだというお話です。私たちはこの種蒔きの例えのどのタイプの生き方をしているのでしょうか。誰でも良い地に蒔かれた種となり、百倍の実を結ぶ者になりたいと思います。

この箇所を読んで、私は、以前妻と交わした「約束事」を、思い出しました。私は、彼女が家の正面の庭の手入れをするなら、私は裏の雑草だらけの庭の手入れをすると言って、この約束を実際にやってのけ、彼女を驚かせました。雑草を抜ききれいにし、そして庭に飾り石まで配置しました。私は庭を良い地にして花が良く咲くように整えたのです。

私たちの人生において、自分を良い地に整えるとはどういうことでしょうか。それは、この例えで表わされている種、つまりみことばを純粹に受け取り、良い心で聞くということです。そうすることにより、みことばをしっかりと守り、良く耐えて実を結ぶことができるようになるのです。

エレミヤも同じようなことを言っています。エレミヤは、主のことばを人々に伝え、人々がそのことばを良い心で受け取り、生涯主に信頼することで、信仰がしっかりと根を下ろすことが出来ると言っています。私たちが命の源である主から霊の糧を得られるなら、たとえ罪深いこの世にあって暑さや渇きを覚えても実をならせることが出来ます。ただ主だけを見つめ、主により頼んで行きましょう。

讃美歌 304

祈り 親愛なる神様。あなた様から頂く霊の糧を感謝します。あなたと御子に根を張り続けるとき、どうか私を生かし、実を結ぶ者としてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ダニー・マイズ

テキサス州 アマリロ

11月4日(木)

主と交わり続ける

聖書朗読 ルカ 8：22～25

イエスは起き上がって、風をしっかりと、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、おおなぎになった。

マルコ 4：39

イエス様が舟に乗られたとき海は全く穏やかで、イエス様は「向こう岸へ渡ろう」と言われました。イエス様は疲労から間もなく眠りにつかれました。やがて激しい風を伴う嵐がやってきて舟は呑み込まれそうになります。そこでイエス様は弟子たちに起こされ、風と波をしっかりと従わせられました。すると湖は彼らの目の前でおおなぎになりました。イエス様のみことば、ひとつひとつのことば、そして触れていただくとき、何と力が現れることでしょうか。

「水を静めた方と手と手をつなごう。海を静めた方と手と手をつなごう」という歌をご存知かもしれませんが、私たちは主と手をつなぐとき、荒波に揺れる舟は決して呑み込まれないことを知っています。主の御手に触れることで、私たちは主と親しく交わり、主のものとなり、主と対話をさせていただき、さらに自らの旅路に対する安心感と自信が与えられます。主は私たちを故郷へ導いてくださるのです。

これまで誰かに自分の道を軌道修正するために必要なことばをかけてもらったことがありますか。主の道、そのご計画、みことばに心を開きましょう。主と交わり続けましょう。

讃美歌 273

祈り 父なる神様。あなた様の見守りにより、私たちは平安が与えられ、道を逸れずにいられます。感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アン・K・ヤング

コロラド州 モニュメント

11月5日(金)

弟子の身分

聖書朗読 ルカ 9：51～62

誰でもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

マルコ 8：34

教会は、しばしばクリスチャンとして歩む上で、弟子としてあるべき姿を取り除いて、「クリスチャンもどき」のようなものを実践してはいないでしょうか。このようなクリスチャンの在り方は、自らを主の在り方に合わせるのではなく、自分のライフスタイルに合わせる訳ですから、より従いやすいものです。自分の計画が邪魔されることはないですし、変化を求められることもなく、自分たちの生き方はそのままで行われるのです。

ルカ9章51節から19章28節で、ルカはイエス様がエルサレムに向かって行かれるまでの様子を描いています。イエス様が弟子たちに従うよう言われたその道は、大きな犠牲を伴うもので、周囲からは拒絶され(51～56節)、あるいは、ひたむきな献身(57～62節)を求められるものでした。ここで家族についての記述がありますが、家族も大切ですが、弟子として歩む神様の召しは、それに優先するものではありません。

弟子であることは多大な犠牲を払うものであり、日々のひとつひとつの決断と私たちの築く関係に始まるものです。また、弟子であることは、たとえ犠牲を払うことがあったとしても、誠実であること、そして他者の命のために自身を捧げることです。それは、例えば、苦しみのうちにある友の話に耳を傾ける、鬱に陥って苦しんでいる方のそばに寄り添う、ひとり親を支えるために時間と労力を費やす、誰かを亡くす経験をした方に寄り添う、近所にやって来た新しい家族に食事を振る舞う、あるいは、励ましのメッセージを誰かに送るなどがあるでしょう。弟子であることは小さな親切から始まり、私たちがすべてにおいてキリストに従うまで、大きな犠牲を伴うものになっていきます。それは生涯続く旅なのです。

讃美歌 536

祈り 主よ。あなた様の御力によって、他者の為に自分を低くすることを学ばせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

デーブ・ブランド

テネシー州 ソマビル

11月6日(土)

成すべき事、あるべき姿

聖書朗読 ルカ 10:25~37

何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受け入れることができるでしょうか。

ルカ 10:25

イエス様が人々に教えを説いていたある日、群衆の中からひとりの律法の専門家が立ち上がりイエス様を試します。イエス様はこの時「何か質問があるか」と尋ねてはいなかったのですが、この律法の専門家はあえて質問します。彼は、人々が喜ばないであろうと思うような答えを期待していました。その質問とは、天国に自分の場所を確保するために何をしたら良いかということでした。これに対しイエス様は、律法には次のように要約されていると答えられました。「心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」(ルカ10:27) さらにイエス様は、どのような者が天に入る事ができるのかという点についてお話されます。

この律法の専門家への答えの中で、イエス様は良きサマリア人のお話をされますが、そのお話の中心は、イエス様に従う人々にいつでも対応出来るようにしておくこと、また、彼らを助け、彼らに心を配るということです。誰が天国に入ることが出来るか。それはイエス様の血によって贖われたイエス様の弟子であり、周囲の人に目を向け、イエス様と同じように彼らをもてなす者です。イエス様の恵みと平安に満たされることによって、イエス様に似たものとなります。私たちがあるべき姿に焦点を当てるとき、成すべき事がそれに伴ってくるものです。

讃美歌 325

祈り 親愛なる天の父なる神様。十字架上に示されたあなた様の愛の犠牲への思いを私たちの中心とさせてください。あなた様を礼拝します。私たちの心を常に備えさせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アンディ・ベイカー

テネシー州 フランクリン

11月7日(日)

目を覚まし、仕える

聖書朗読 ルカ 12:35~40

人ではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。

エペソ 6:7

私は6歳になる孫娘と一日をともに過ごすこととなっていた日、わくわくしながら彼女を迎えに行きました。私が到着すると彼女は既に上着を着てブーツを履いて待っていました。その日何をして私の手伝いをしようかと心躍らせながら、私の到着を首を長くして待っていたようです。

今日の聖書箇所イエス様は、私たちも「仕えるために身を整え」、主の来られるのを、心を備えて待ち望むことに気づかせようとしておられます。私たちはどのように待ち望むべきでしょう。イエス様は、「人に惑わされないように気を付けなさい。」(マルコ13:5)、そして、「誘惑に陥らないように、目を覚まして、祈っていなさい。」(マタイ26:41)と言っておられます。

私たちは祈りを通して目を覚ましておくことができます。父と語る時、私たちの歩みが吟味されます。自分が誰かに惑わされていないかどうかを探るために、みことばを充分求めているでしょうか。誘惑を避ける導きを求めているでしょうか。避けるべき誘惑は性的なものだけではなくありません。「争い、ねたみ、憤り、党派心、そしり、陰口、高ぶり、騒動」(II コリント12:20)もそうです。目を覚まして祈りましょう。

仕えるためにはどうしたら良いでしょう。私の孫娘が、植木の水やり、クッキー作り、人に差し上げるカード作りを喜んで手伝ってくれたように、私たちも他者に仕えることを通してイエス様に仕えることが出来ます。そうすることも、目を覚まして心を備えておくという姿勢なのです。

讃美歌 374

祈り 親愛なる神様。私たちが自らの過ちに気づき、誘惑を避けることが出来るようお導きください。あなた様のお名前によって他者に仕え、あなた様の恵みによって私たちが出来る事を喜びとさせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ラニタ・ブラッドリー・ボイド

ケンタッキー州 ニューポート